



artful_settaya_004_history

(歴史編)

昨年10月のアートフル・サフランの摂田屋版です。
この座学と現地ガイドツアーがセットになっています。

今日は歴史編のみですが、こんな順番で、お話しします。

1. 歴史から見た摂田屋

中世の歴史

近世、江戸以降の歴史

醸造業の発展の要因

摂田屋の延焼を防いだ建築物

土地の成り立ち、
摂田屋の醸造のはじまり

2. 意外な通行者、訪問客

三島億二郎、そして

絵画、書、彫刻、
そして自然編が、
もう一方のテーマ。

3. 中越地震20年、思い出すこと

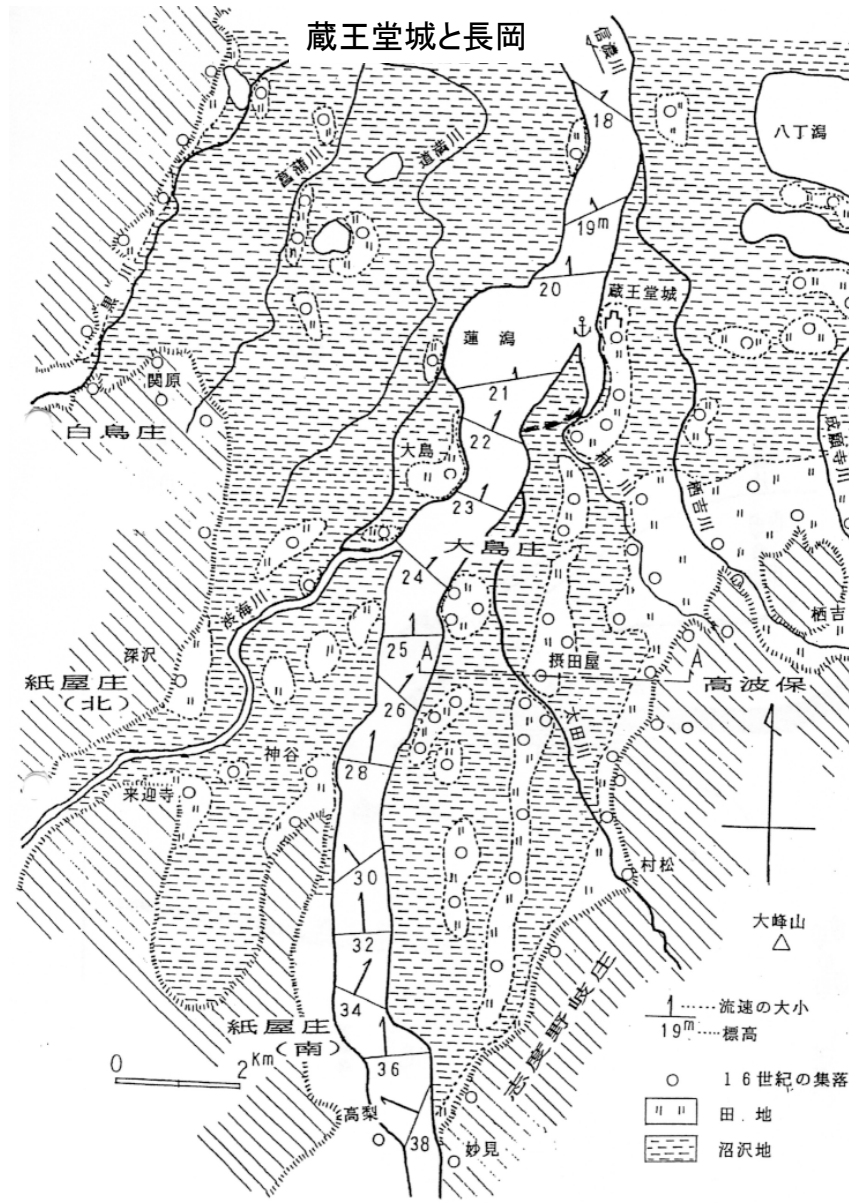
③

1. 歴史から見た摂田屋

- ① 中世の歴史
- ② 近代、江戸以降の歴史

中世の長岡

大半は湿地帯



十七世紀頃の蔵王堂城50.png

平安、鎌倉 ～ 寺社、摂関家の領土。

室町 ～ 幕府が任命した管領職、関東管領として上杉氏一族。

戦国 ～ 上杉の家臣から台頭する長尾氏一族へ守護職の交替。

上杉、武田の戦いも、宗教の聖地である諏訪、善光寺の帰趨をめぐる争いと見做せる。

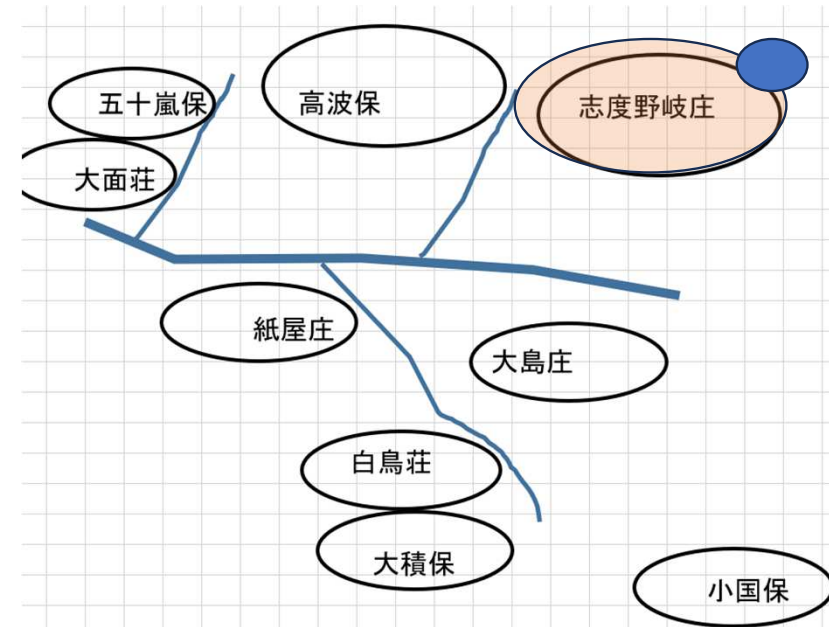
朝廷、及び宗教勢力との二重統治から武家単独による全国统一へと進めたのが江戸幕府であり、近世の始まり。

蔵王神社が、寺泊矢田から何処に移るか、
というとき、どう考えたか。春日説は、

- ①修行の場を、東山でも栃尾に近い東山は避け、南の大峰山、
金倉山に行ける蔵王にした。
- ②摂田屋を宿泊に使おう。

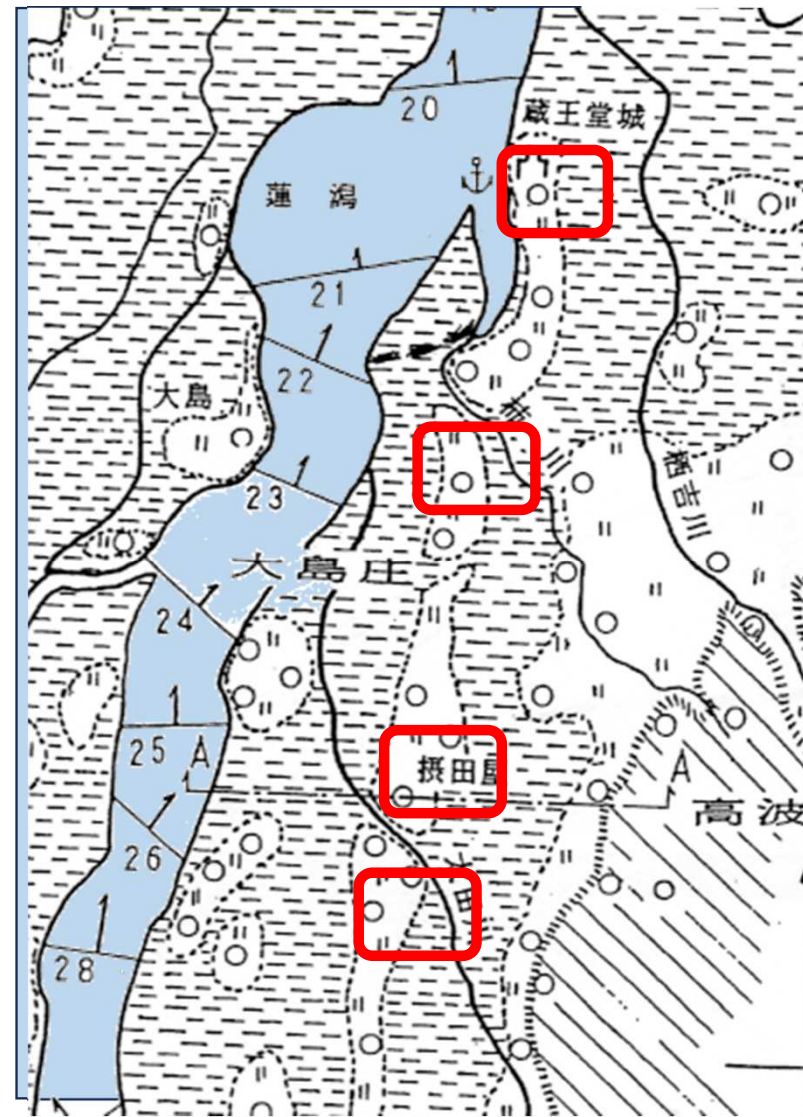
志度野岐庄

庄は貴族・寺社領、保は国府領を示す言葉。
よく耳にする志度野岐庄は、小千谷から妙見、
石坂付近が中心。その志度野岐庄の一部が
歓喜寺領であつたらしい。(大峰山)
近くの紙屋庄、大島庄などは藤原摂関家領で
あつたようだ。更に北に高波保、西に白鳥荘、
大積保、小国保などに囲まれていた。
更に北の下田は五十嵐保、大面荘。



流路が移る信濃川は、少なくとも縄文期には東山麓に流れた。それが東山の縄文遺跡であり、村松(村間津)の地名に残る。

蔵王堂から摂田屋、十日町までの線上が、湿地帯のなかの丘。十日町も古くから集落になった。



蔵王

長岡

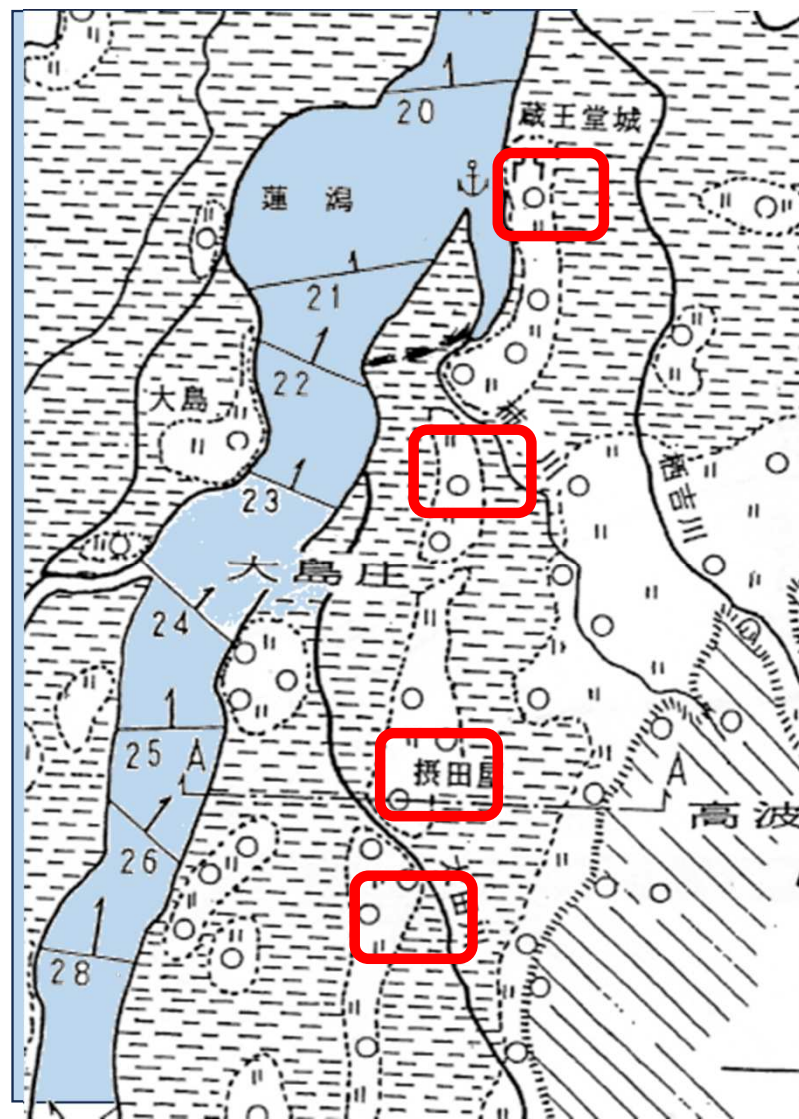
摂田屋

十日町

東の山麓に住む人々が、稲作作業のため、湿地帯の小高い位置に田屋を建て、摂田屋の地名になった。

蔵王堂の修験者が、修行の場としたのが、大峰山、金倉山の山々。彼らを接待したのが、接待屋という地名になった。

江戸期、蔵王神社別当寺の支配地の接待屋村、譜代大名越後長岡藩領の接待屋村が、並存。



蔵王

長岡

摂田屋

十日町

中世の摂田屋周辺には、武士の館が散在。

上条城の近くの摂田屋城、定明城、鷺巣城、村松城、中沢城

摂田屋城	太田川の右岸、吉乃川の上組蔵の真南あたりにあったらしい。川上四郎の生家も、このあたり。
定明城	尼寺の定明寺と八幡神社の間のあたりにあった。吉澤仁太郎の生家も、城の近くとされる。
鷺巣城	鷺巣町の曹洞宗寺院の定正院境内にあったという。山上に建ち、周りは参道階段や崖に囲まれた要害である。
村松城	長岡市村松町の古刹円融寺の奥山にあったという。ここと金倉山頂上を結べば、魚沼・坂戸城の上田衆との連絡も可能であったであろう。上条城を含め、これらは、城というより大きな館が、主要な城としての栃尾城、栖吉城、坂戸城との連携のための出城のようなものだったと思われます。
中沢城	中沢町の奥、真宗大谷派寺院の専行寺の左から、中央総合病院が見える方角に少し行ったところ。

中越の上杉勢は、全て、景虎側だった。

（長岡から全周を見渡しても、景勝勢は、小木の城のみ。）

もしも、景勝側についていたなら、これら館のいくつかは残り、村松の二つの巨大寺院も、七堂伽藍が残っていたかも知れません。

宮内の地域名に残る、都野神社（現・高彦根神社）

源頼朝から神領三千貫を寄進された大社であったが、天正六年（1578）の御館の乱で、景虎側だったため、兵火にかかり焼失。神領も没収されたらしい。都野神社は御館の乱の後に、与板に移された宮内の現・高彦根神社は、式内社・都野神社の論社である。
～ 論社とは、延喜式に記載された神社と同一もしくはその後裔と推定される神社のこと。

（明治初年に、現社号・高彦根神社と改称。）

② 近代、江戸以降の信濃川右岸の新田開発の歴史

新田開発の歴史 = かんがい用水の建設史

福島江
東大新江

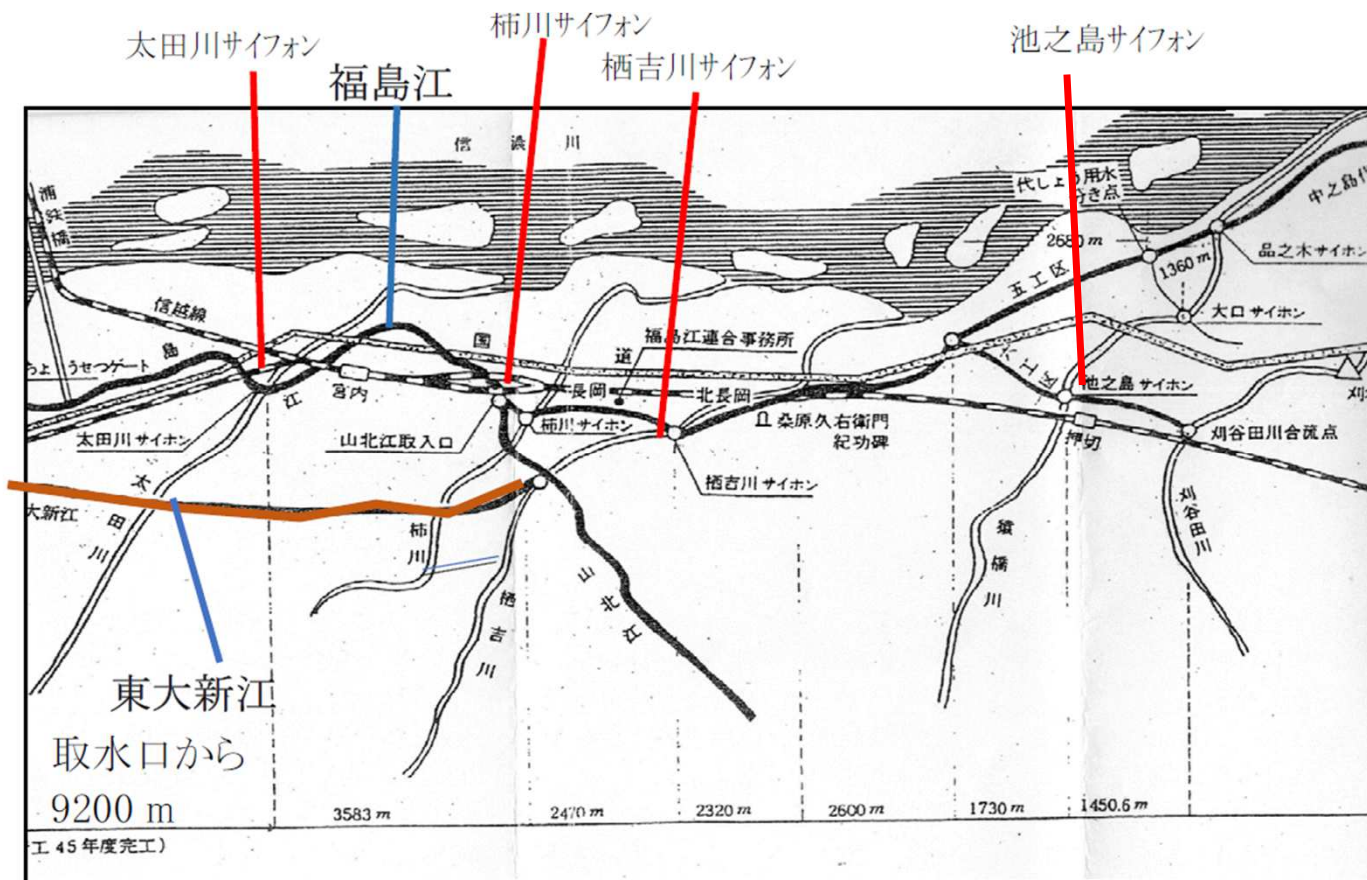
太田川 竹之高地に源

栖吉川 栖吉に源

柿川 南蛮峠付近に源

猿橋川（成願寺川）成願寺、浦瀬など東山に源

福島江の実用化はサイフォンの建設に依存



旧三国街道(摂田屋エリアは別名・殿様街道)と 異説・牧野候通り



江戸初期 東福門院和子の母、妙徳院と長岡・摂田屋村

東福門院和子(まさこ)とは、後水尾天皇の妃(中宮)、そして第109代 明正天皇(女帝)の生母である。徳川幕府の公武合体に貢献し、徳川300年安泰の基礎を作った。絶世の美女と謳われる。和子は、美術の面でも、多く残している。

修学院離宮を建てた費用の大半が和子の要請により幕府から捻出されたものとされる。

茶道を好み、千利休の孫である千宗旦を御所に招き茶事を行い、茶道具に好み物も多く、野々村仁清に焼かせた長耳付水指(三井記念美術館所蔵)が現存する。

宮中に小袖を着用する習慣を持ち込んだのは和子といわれ、尾形光琳・乾山兄弟の実家である雁金屋を取り立てたとされる。

ここまでは、史実のようだが、ここからがいろいろ。

wikiでは徳川秀忠の五女として江戸城大奥で誕生。和子の母は豊臣秀吉の養女・達子(浅井長政の三女)となっている。

ところが、越後長岡では、和子は城の外で密かに誕生。後にお城へ。和子の母は妙徳院で、上杉謙信育ての親とされる軍師、本庄実乃の孫としている。妙徳院を堀直奇が秀忠に推挙したとする。

(墓は四郎丸の昌福寺)

妙徳院が隠居して、長岡の蔵王堂に隠棲することにより、天海僧正との関係から貴重な宝物が神社に遺されたとする。なお妙徳院に下された摂田屋などの寺領は全て、別当寺安禅寺所領となった。

安禅寺は寺領として幕府から与えられた朱印地300石を持ち、領域は蔵王、寺宝、摂対屋、堀金、雨池、中島の6か村に及んだという。妙徳院の労に対して幕府は年900石を支給。妙徳院は、そのうち200石を信州戸隠に、130石を摂田屋に寄進したという。長岡藩の予算の0.5%に相当する130石が、妙徳院の死後も年金のように摂田屋にもたらされたとすると、その潤いは大変なものである。

江戸時代の摂田屋の繁栄への寄与は、大きかったはずで

03_醸造業の発展の要因

(1) 江戸末期

摂田屋醸造の創業時期は商品経済への移行という
時期に重なる
水陸の物流、良質の水に恵まれた地域であった

(2) 明治大正期の発展

醸造技術開発を先導した摂田屋蔵元
サフラン酒が長岡中小酒蔵の統合をリード
一大消費地・長岡町のオイルシティ繁栄

お福酒造の酒造技術革新

醸造技師を務める傍ら、醸造用水加工や酵母の培養についての研究を続け、その集大成として明治27年、酒造りに関する専門書「醸海拾玉(じょうかいしゅうぎよく)」を発刊。特に醸造用水の加工研究は、軟水による酒造りをいち早く可能にした。

吉乃川の酒造技術革新

自動製麹装置の開発、大容量タンク採用の開発で日本酒造りの労働集約体質を改善。

機那サフラン酒当主の動き

醸造業界の課題への対応

中小酒蔵の大合同、瑠璃容器への着目

サフラン酒本舗の興亡の仮説

二の矢が不足した

量的拡大を逸した

農地解放で資金不足

石油掘削業界の低迷

<p>先見性</p> <p>機那</p>	<p>拡大性</p> <p>葡萄酒</p>	<p>広告着目</p> <p>大看板 ネオンサイン</p>	<p>業界への視点</p> <p>酒蔵大合同 瑠璃容器</p>
-----------------------------	------------------------------	--	--

オイルシティ長岡の追い風

神仏への敬意

勤勉さ

⑥ 摂田屋の延焼を防いだ、ひとつの建築物

関東大震災

長岡商業銀行宮内支店建設、急遽、鉄筋コンクリート構造に。
～現在の、秋山孝ポスター美術館

太平洋戦争末期の長岡空襲

80パーセントを焼失した市街地の中で、
かろうじて延焼を免れたのは、
学校町の旧制長岡中学、旧制長岡高等工業の一带と、
摂田屋のエリアだけ。

2. 意外な通行者、訪問客 三島億二郎、そして

摂田屋は長岡の周辺で、大きな集落。
山道方向は村松への道。

(1) 意外な通行者

高野五十六、堀口大學ら

高野五十六の父、貞吉は、石坂小学校の初代校長。
幼い五十六も父への届け物を手伝ったようです。

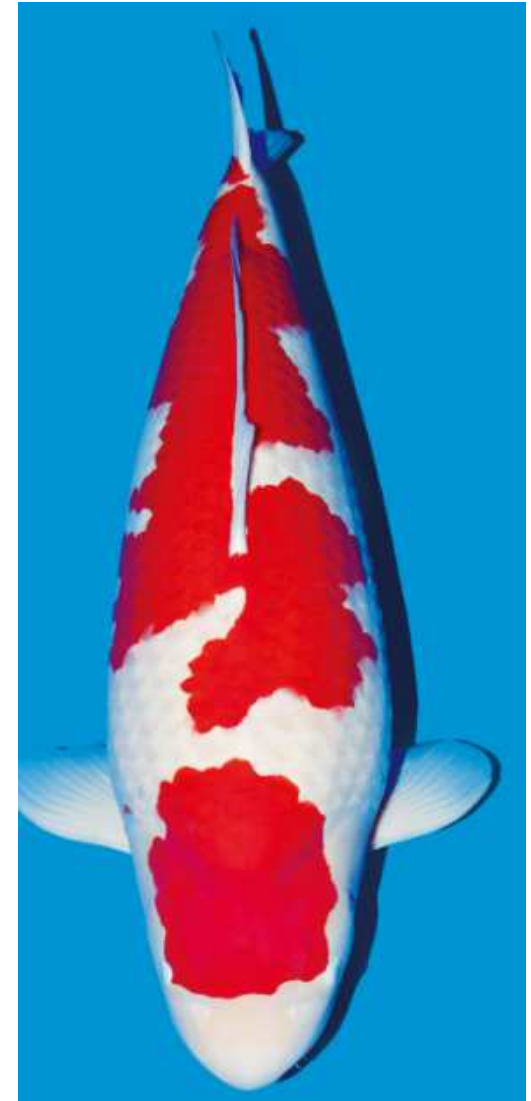
創立記念は明治6年11月。
明治20年8月 町村制実施により石坂尋常小学校と改称。
高野五十六は明治17年(1884)4月に誕生。

堀口大學の長岡中学同級生に松岡讓。
讓の村松の生家に、遊びに通ったようです。

前川清さん

今から50年前、デビュー前後に、
錦鯉の魅力にはまり、愛好家となる。

山古志の養鯉業者に弟子入りし、
ブランド鯉「前川紅白」を確立。
近年は、公演の合間、
都合がつけば山古志へ。
晩秋の野池からの池上げの姿が、
例年、テレビで放映されている。

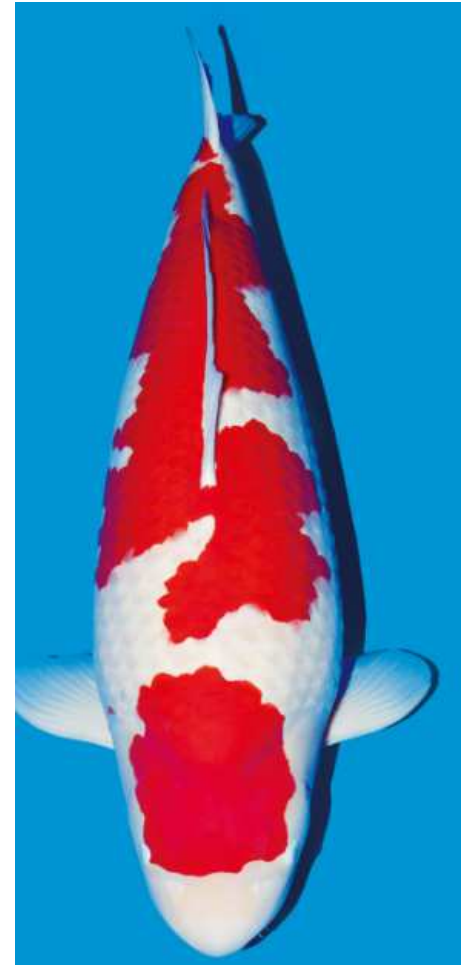


ちなみに
①がSレジェンド
史上最高値の錦鯉

②が
前川さんの紅白
甲乙つけがたい



① Sレジェンド



② 前川紅白

意外な訪問客

木曾恵禅、三島億二郎

摂田屋商家の当主らに中国の学問を教えたのは誰か

摂田屋の星野本店の土蔵扉の「孝弟為基・・・」の漢文、
同じく摂田屋の機那サフラン酒の罌絵に込められた中国思想、
さうとう高い教養がもとになっているはずと、
考えておりました。

そして、これらを摂田屋の商家の当主らに教えたのは誰か、
ずっと気になっておりました。

ところが、

長岡郷土史第11号 1972の

塚田正之助氏「大道校と殿町の塾と囂外覺」の木曾恵禅の項で、

『文化十二年(1815)十一月二十九日、西蒲原郡砂子塚村長宗寺清水恵亮の二男に生まれて庭訓をうけ、十才のとき同郡熊之森の竹山屯から四書五経・唐詩選の素読を教わり、二年後の天保元年(1331)二月には鈴木文台から経義および史学を学んだ。

...

布教するには演説がもっとも手っとり早く、効果的なところから、彼は、明治十一年、僧侶の子弟を集めてこれを練習させ、長岡を中心に見附・今町・摂田屋の寺院で演説会を開き、あるいは、同十四年、長岡警察署の委嘱で栃尾や魚沼地方に巡回講演を・・・、』とありました。

木曾恵禅師は、竹山屯から四書五経・唐詩選の素読を教わり、鈴木文台から経義および史学を学んだ、とあり、漢書を学び、中国の古典思想にも親しんだと想像されます。

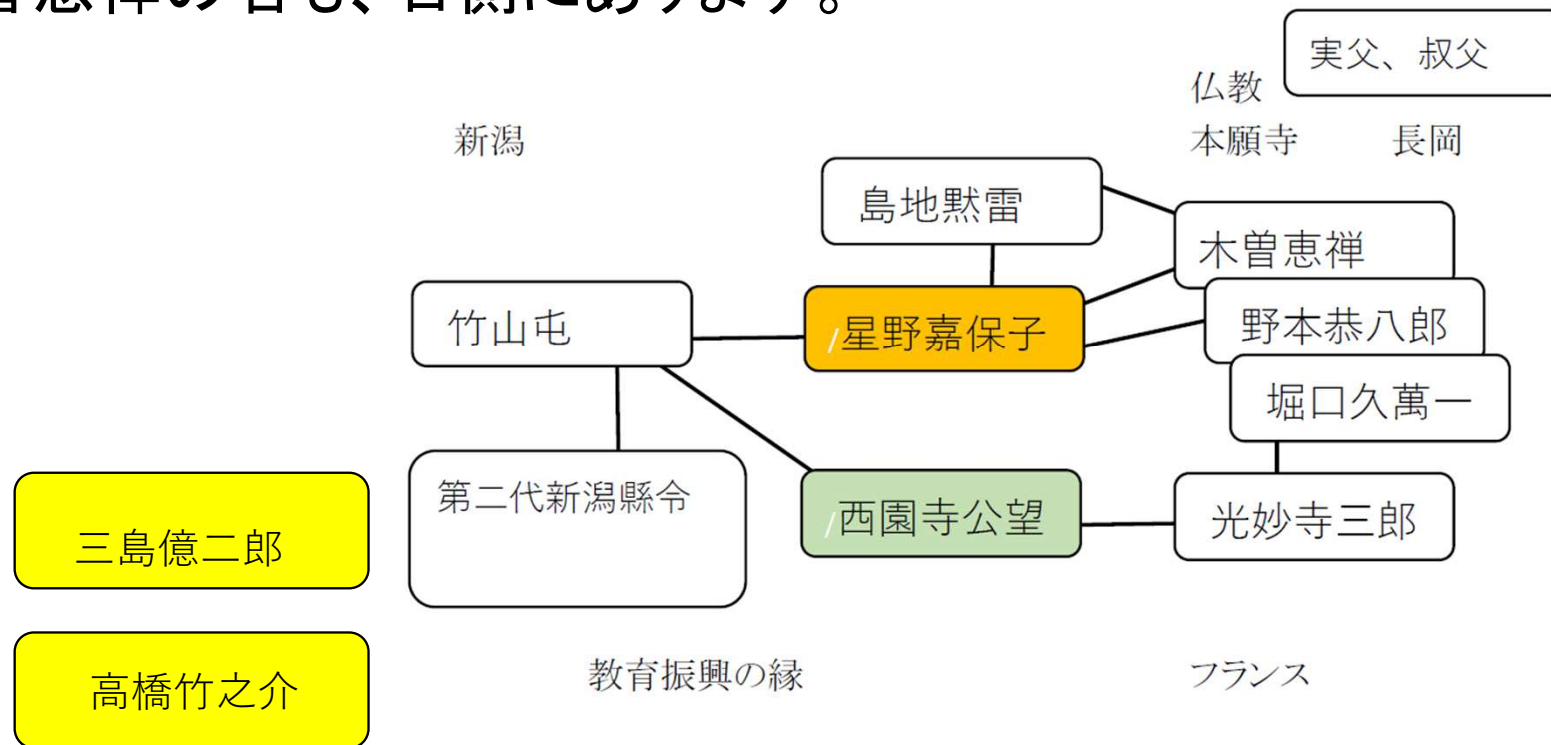
これらより、もしかしたら、摂田屋の商家の当主らに教えたのは木曾恵禅師かも知れないと、考えました。

恵禅師なら納得で、個人的には「大発見」でした。

三島億二郎の撰田屋訪問（北海道開拓）

明治19年、北越殖民社を設立。当時の北海道長官は、岩村通俊(精一郎の兄)で、岩村通俊から多くの協力を得た。明治22年(1889)の暮れから翌年正月、64才の億二郎は、人足三人を従えて山古志や長岡各村を周り、移住希望者を募った。1/11は小曾根、1/16は撰田屋村。
～岩村北海道長官へは、当時の新潟県令・永山県令が橋渡しをしたらしい。

星野嘉保子の新潟県令・永山県令ほか、人物関係図に、
 三島億二郎、高橋竹之介を追記しました。
 木曾恵禅の名も、右側にあります。



3. 中越地震20年、思い出すこと

醸造会社、全て復興

新幹線脱線現場と、震災前の愚直な補修工事

山古志をはじめ、中越全体の復興のスピード

東山麓は地震の巣

三条地震(1828)の震源 現在の長岡市栃尾椿沢付近
中越地震(2004)も長岡市川口

大峰山 山頂の一等三角点 1mの水平移動

新幹線脱線箇所は十日町

その前、阪神大震災の被災状況の検討から、高架の総点検
全体の70%を補修していた

摂田屋も地震被害大。 鰻絵蔵破損、長谷川酒造 レンガ壁が脱落
越のむらさき 蔵の壁にひびが入り、レンガの煙突が損壊

山古志の避難、復興のスピード

- 山古志の全住民2,200人、地震の翌日午後、県に全員避難を要請、地震の2日後には長岡市内に一斉避難を完了（阪之上小など）。
- 避難所建設と、地区単位で順次移転。
- 住民、4年後に、希望者ほぼ全員が山古志に帰る。
（道路復旧）
- 道路復旧を中心に、土木工事へ900億円を投入と云われています。

中越の復興のスピード

- ・たまたま、当時、越路橋を渡って通勤していました。

毎朝、他県ナンバーのダンプカー、東北電力の
工事会社の車の、たいへんな車列とすれ違って
いました。実感として、二年間の集中工事。

(蛇足) 大河津分水拡幅治事業のスピード、工事費

- ・長年の課題と近年の豪雨に対し

放水路の拡幅(山地部掘削、第二床固改築、野積橋架替等)

事業期間:2015 H27年度～ 2035 R14年度

====> (～2041 R20年度)

全体事業費:約1,200億円

====> (約1,765億円)

(蛇足) 長岡市柿川放水路のスピード、工事費

平成23年7月下旬、新潟では記録的な豪雨。
柿川流域、累計雨量160mm、最大雨量55mm/時。
(平成23年7月新潟・福島豪雨)

事業箇所 : 長岡市幸町～金房

事業期間 : 2012 平成24年度～2018 平成30年度

工事内容 約128億円